

## Q7.このレッスンから何を学びましたか?また、何か気が付きましたか?

(小学5年生)

- ◇ いつも学校でならっている英語とちがった。How are you?じゃなかった。もっとたくさん話をしたい。
- ◇ もっといろんなことについて話したかった。英語がもっとできればいいと思った。
- ◇ 笑顔やジェスチャー、大きな声を出すことはとても大切ということがわかった。
- ◇ オーストラリアの友だちと、やる前はすごく遠いような気がしたけど、やった後は近づいた気がした。
- ◇ 英語の勉強で一番大切なことは思いやりだと気付いた。
- ◇ 国はちがっても考え方はにている。話す前と後では、すごくちがうなと思った。
- ◇ 言葉が伝わらなくても、気持ちは伝わる。
- ◇ オーストラリアの子も、日本語をしっかりと覚えていたので、自分もしっかりおぼえたい。
- ◇ もっとオーストラリアの友だちと話して仲良くなりたい。
- ◇ 言葉はかたことでも、ジェスチャーなどで通じたことで、もっと英語の勉強をしたいと思った。
- ◇ オーストラリアの友だちは、すごく元気で、画面の前でおどったり歌ったりしていた。すごくおもしろくて、楽しくて、話やすかった。
- ◇ 外国の人でも、言葉がうまく話せなくても、友だちになれる。
- ◇ まず日本のことや、静岡のこと、日本語のことをしっかりと勉強しないといけないと思った。
- ◇ もっと英語で話すことに、なれないといけないと思った。
- ◇ 私たちも英語を習っているけど、外国の方たちも日本語を一生けん命がんばっているんだと思った。
- ◇ 英語はむずかしくて、外国人から見れば日本語もそうだけれど、もっと練習して学び、同じくらい話せるように努力しなければいけないと思った。
- ◇ 自分の英語でもちゃんとわかってくれて、うれしかった。自分も日本語をちゃんと聞いてあげようと思った。
- ◇ オーストラリアに行ってみたくなった。いっしょに遊びたい。
- ◇ しっかりはっきり言わないと通じないし、笑顔はできていてもうまく話せないのも、もっとがんばろうと思った。
- ◇ あまり英語が話せなくても、写真とか絵を使うと、もり上がるし、アニメのキャラの名前を言うだけでも、すごくよろこんでくれて、次までにはもっとしっかりしたものを持っていきたい。
- ◇ むこうの友だちは日本語が上手で、みんなとてもやさしい。
- ◇ コミュニケーション、ジェスチャー、リアクションは大切だなと思った。
- ◇ 自分の国の言葉を相手が学んでくれるとうれしい。
- ◇ 日本では英語を学んで、オーストラリアでは日本語を学んで、自分の国の言葉をがんばって、おぼえようとしてくれていることに感動した。
- ◇ 一生けんめいに相手の国の言葉を話して、会話をするのはとても良いことだと思った。
- ◇ 学校で学んだ英語が相手に伝わって自信になった。
- ◇ まだ知らない英語を話してきたので、たくさん勉強して、次はもっと上手に話ができるようにして、外国の友だちとたくさん話したい。

- ◇ 笑顔で、日本語を話してくれた。自分も自然と笑顔になれた。
- ◇ 言っている言葉がよくわからなくてこまったとき、会話をしていた子がカタカナで書いてくれて、とてもうれしかった。
- ◇ わからないこともゆっくり話してくれて、ジェスチャーもあって、すごくわかりやすかった。
- ◇ 英会話をならっているけど、あまり同い年の外国人と話したことがなかったので、すごく楽しかった。
- ◇ オーストラリアの子が先に日本語を話してくれて、そのあと自分が英語を話すとき、すごく気が楽になった。
- ◇ 英語が少し好きになった。

(小学6年生)

- ◇ 自信がなくても大きい声でわかりやすく伝えるように話せば通じることに気が付いた。
- ◇ はじめは自分も相手も緊張していたけれど、話していくうちに緊張がほぐれていったことに気づいた。
- ◇ 相手は緊張していて自分から進んでいった、ゆっくり話してあげて、よく聞いてあげることの大切さを学んだ。
- ◇ 最初はちゃんと話せるか心配だったが、ペアが変わるたびに英語でコミュニケーションすることになれてきて、ちゃんと自分が成長していることがわかっていい授業だと思った。
- ◇ 相手が話してくれるのを待つのではなくて、自分から進んで相手とコミュニケーションとると、うまくいった。
- ◇ オーストラリアの人たちは自分たちの使う日本語を一生けん命勉強していることに気が付いた。
- ◇ 外国の人と英語で話すのは、こわいことではなく楽しいことだということ。
- ◇ 自分から話せば会話をすることが楽しくなることを学んだ。
- ◇ どんなときでも笑顔が大切だということ。
- ◇ 次々に聞きたいことがあったけど何て言っても出てこなかった。もっと英語の勉強をしたい。
- ◇ わからなくても単語を言えばわかってくれるので、授業でも、完ぺきでなくてもいいから、とにかく伝えようとすることが大切だと思った。
- ◇ おたがいの国について知ることは大切だと思った。
- ◇ ジェスチャーを使ったり、笑いを考えたりするだけですごく話がもり上げることに気づいた。
- ◇ オーストラリア人のノリや、どのへんで笑うのかがわかった。相手が、どうやったら笑ってくれるのか、なにを言ったらもり上がるのか、考えながら話すのは楽しい。
- ◇ 同じ言葉を使っても、イントネーションで変わったりすることがわかった。
- ◇ 相手の日本語が聞きづらかったけど聞く努力をして、相手も努力してくれて、とてもうれしかった。
- ◇ 一生けん命話してみたら相手もしっかり聞いてくれた。
- ◇ あまり伝わらないこともあったけれど、笑ってくれた、相手が笑顔になってよかった。
- ◇ 笑ってほしければ、まずは自分が笑顔で話をしないといけない、と思った。
- ◇ もっと英語を話せるようになりたいと思った。
- ◇ なんかもテキストみたいな英語のことはじゃなくて、「いいよね!」「すごい!」「かわいい!」とか、そういう一言を知っていれば、もっと楽しく話せるのに、と思った。
- ◇ おもしろい写真とか見せてくれていたのに、リアクションのことはこまった。次までに勉強したい。

- ◇ 今まで外国人に会うと少しこわかったけど、このレッスンのおかげで「外国人は悪い人ではない、同じ人間だからこわくない」と思えるようになった。
- ◇ オーストラリアの子はとても日本語がうまかった。私も次に話す時まで英語をうまくなりたい。
- ◇ 外国の人と話すのはむずかしいけど、たくさん話をすれば話せるようになると思った。
- ◇ ちがう国の人とても思いやりを持って話せば会話ができること。
- ◇ とても楽しくて、じゃんけんで相手が笑顔になったので良かった。
- ◇ 外国人でも友だちになれるということ。
- ◇ 外国人と話ができないと思っていたけれど、伝えようとする気持ちがあれば、話ができることがわかった。
- ◇ オーストラリアの子たちが、どんな生活をしているのか、いろいろと知りたくなった。
- ◇ 思っていたよりも英語が伝わったし、他の国の人と話することはすごく楽しいと思ったので、もっとしっかり英語を話せるようにがんばりたい。
- ◇ 少し自信がないところもあったけれど、やってみるとすごく楽しかった。
- ◇ オーストラリアの子たちは、楽しくしようと、一生けん命にがんばっていたので、ぼくも英語をがんばりたい。
- ◇ 外国の子たちは、日本人と話するのがはじめてだったかもしれないけど、自分が笑うと相手も笑ってくれたので、人はみんなつながることができると思った。
- ◇ ちゃんと話を聞いてくれて、思いやりがあった。
- ◇ オーストラリアの子がすごくがんばって、日本語を話していたので、自分も一生けん命にやろうと思った。
- ◇ オーストラリアの子どもたちも、日本語の勉強をがんばっているから、私もがんばって英語の勉強をやる。
- ◇ 思いやりを持って話せば仲良くなれて、コミュニケーションがとれる。
- ◇ このレッスンをして、外国の人とつながることのすごさと、会話のむずかしさを学んだ、すごく楽しかった。
- ◇ ただ答えるのではなくて、聞かれたことの答えにちょっとつけ加えて答えるとよいとわかった。
- ◇ 自分から積極的に話すことの大切さ。
- ◇ 少しくらいまちがえていても、相手は気にせず話していたし、話していることは伝わった。
- ◇ スカイプだけなら自信をもって交流できそう。
- ◇ 外国の人だって、僕たちと同じで緊張していた。すこし安心した。
- ◇ はっきり発音しないと相手は聞き取りにくくなることを学んだ。
- ◇ 相手の子が、おもしろい写真とかグッズをいっぱい見せてくれて、すごく楽しかったけど、自分はあまり用意してなくて、もうしわけなかった。もし次があれば、相手の子がおもしろいと思うものをちゃんと用意したい。
- ◇ その国のことばを覚えればどんな国ともつながることができるということがわかった。
- ◇ あっという間に終わってしまった。自分の英語が思ったより通じて、うれしかった。
- ◇ また英語の勉強をたくさんして CCC プロジェクトをやりたい。
- ◇ 思いやりを持って接することで相手は楽しめることを学んだ、ゆっくり話せばいいと思った。
- ◇ 言葉が通じなくても、ジェスチャーや笑顔でコミュニケーションをとることができるとわかった。
- ◇ 私の英語は少しわからなかったと思うけれど、オーストラリアの子たちは一生けん命聞いてくれた。

(中学1年生)

- ◇ 英語で話すということはとても楽しいということがわかった。
- ◇ 日本語も、英語も難しいけど、おたがい気持ちがわかるから、協力して、たくさん会話ができた。
- ◇ はじめは覚えた内容を話さないといけない、と思っていたけど、たくさん話をしているうちに、もっと話したいことや伝えたいことが、たくさん出てきた。もしまたチャンスがあれば、しっかりと準備したい。
- ◇ オーストラリアの人はちゃんと英語を聞いてくれて、がんばって日本語を話してくれて、いい人だなと思った。
- ◇ 自分がしゃべる英語でも、オーストラリアの人に通じるということがわかってうれしかった。
- ◇ 日本の友だちと同じようにしゃべることができることに気が付いた。
- ◇ 英語を使って、オーストラリアの友だちと仲良くなることのすばらしさ。この次は、もう少ししっかり聞きたい。
- ◇ うまく話すことよりも、相手の気持ちになって話すことの方が大切ということに気が付いた。
- ◇ 日本人が言っている英語と、オーストラリアの生の英語はやっぱりちがうなと思った。
- ◇ 英語って聞きとりづらいけど、話をしているいろいろと共感できると、なかなかおもしろい。
- ◇ いま自分が知っている単語とジェスチャーだけでも会話ができることに気が付いた。もともと英語は苦手で嫌いなので、やりたくなかったけど、日本の友だちと同じように話ができたから、すこし英語が怖くなくなった。
- ◇ 自分が人見知りだったから相手にもうしわけないと思った。もっと自分から笑顔で話ができるようにしたい。
- ◇ とても楽しかった。英語の勉強はつまらないけど、オーストラリアの友だちと話すためなら、がんばれそう。
- ◇ やっぱり話をしてみないと何もわからないと思った。オーストラリアって何にもイメージがなかったけど、とてもおもしろそうだし、行ってみたいと思った。

(中学2年生)

- ◇ もし次のチャンスがあれば、もっと積極的に話をしたいと思った。
- ◇ いろいろな人種の人、いろいろな英語を話す人、日本人みたいな見た目の人がいておどろいた。
- ◇ もっとたくさんの英語を勉強して、自己紹介や趣味以外のことも話したい。
- ◇ 上手に話すことよりも、相手を笑わせることや、興味をもたせることの方が大切。
- ◇ 言葉は違って通じ合えることに気が付いた。
- ◇ オーストラリアの人たちは、一生懸命日本語を覚えていてすごいと思った。
- ◇ 自分の英語が伝わっていて楽しかった、自信はそこそこしかないけれど、また話をしたい。
- ◇ 自分の英語が通じていたこと、自分たちのためにゆっくり英語を話してくれたこと。
- ◇ こっちが英語で何とか気持ちを伝えようとしているのと同じで、向こうのオーストラリアの人たちも日本語で何とか伝えようとしていたことが、なんか感動した。
- ◇ オーストラリアの友だちが日本についてたくさん知っていた(NARUTO や BLEACH)ことが、うれしかった。反対に、自分はオーストラリアのことをあまり知らなくて、ちょっとこまった。もし次があれば、しっかり勉強したい。
- ◇ 自分が話さないで、相手が困ってしまうし、うまく伝わらなくても、自分でやらないといけないから大変だった。
- ◇ 思っていたよりも話せた、何気ない会話でも絵や写真を見せて合っているのも楽しい。

- ◇ 言葉がうまくなくても、相手に伝えようとする気持ちや、相手の言ったことを理解しようとする気持ちがあれば、ジェスチャーなどを使って楽しく話せる。
- ◇ いつもの生活の中で、外国の人と1対1で話すことなんてないから、すごく緊張した。自分の英語が通じるか心配だったが、けっこうコミュニケーションができてよかった。
- ◇ いろいろと考えて、自分の言いたいことが通じると、とてもうれしい気持ちになるということ。
- ◇ 自分たちがいつも学んでいる決まった流れの英語だとあまり相手にわかってもらえない。
- ◇ 日本語は自分が思っていた以上に聞きとりづらく、外国の人と会話するときには、ゆっくりとわかりやすい言葉で話さなければならないことがわかった。
- ◇ やっぱり英語が通じるというのは大切だけど、アイコンタクトや笑顔が一番コミュニケーションになって、国境を越えてもつながっていけるんだなと思った。
- ◇ 恥ずかしがらず、何でもいいから挑戦して話してみることが大切だと思った。
- ◇ オーストラリアの人たちも、日本語を覚えようとかんがっていた。すごく難しいのにすごい。
- ◇ 日本語で話すとき、オーストラリアの子は質問に答えると、日本語で「すごいね〜!」と返してくれた。自分のときにも相手に「すごいね〜!」と言いたかったけど、英語でどう言えばいいかわからなかった。そういう相手をよろこばせるような一言を言えるようになりたい。
- ◇ 相手も日本の色々なことを知っているし興味があるんだということに気づいた。うれしかった。

(中学3年生)

- ◇ もっと聞きたいことがあったけど英語で何て言うのかわからなかった、次までに勉強したい。
- ◇ なにを話すのかだいたい会話の流れがあったのに、けっこう相手が自由に会話して困った。でも逆にそれがふつつうの会話っぽくて楽しかったし、こっちがわからないところは優しく対応してくれてうれしかった。
- ◇ 私が、英語がわからなくても、バカにしないで笑顔で会話してくれた。
- ◇ 思ったよりも日本のことや静岡のことを聞かれたし、うまく答えられなかった。もっと日本のことや静岡のことに興味を持たないといけないと思った。
- ◇ 外国人と話す楽しさを学んだ、今まで外国人と話してきた中で今回が一番笑顔だったと思う。
- ◇ 自分とは関係ない遠いところだと思っていたオーストラリアだったけど、すごく身近に感じられた。
- ◇ 相手を楽しくさせることが楽しい会話につながると思った。
- ◇ 日本とオーストラリアでは文化が違うし、ことばが違うから、話をしておもしろいなあと思った。
- ◇ 相手が目を見て話してくれたので、はじめは恥ずかしかったけど、終わりの方では自分もちゃんと相手の目を見ながら話すことができた。
- ◇ いつも正しい英語を気にしているけど会話で大事なのは話の中身だったと思う。
- ◇ コミュニケーションは、より相手に伝わるようにしなければならないこと。
- ◇ 上手に言えなくても、伝えたい気持ちがあればしっかり伝わるし、正しい英語を間違わないようにするより、会話のテンポを大切に、相手を待たせてはいけない。
- ◇ うまくない英語でも、一生けん命話せば、その気持ちを感じて、相手もしっかり聞いてくれること。

- ◇ うまくなくても自信を持って話せば、少しはいいたいことが通じる。もしうまく通じなくても、何回も工夫して言い直せば、いつか伝わる。
- ◇ 自分が思っていたより話しやすくて、やる前とくらべて外国人と少し話したくなった。
- ◇ 質問を言われて、答えを返す時に緊張して理由が言えなかったので、次は理由をきちんと言う。
- ◇ いつもはわかるのに急に言われると出てこないことがあったし、やっぱりたくさん会話してなれないと、外国に行ったらコミュニケーションが難しいと思う。

(高校1年生)

- ◇ 英会話を習っているけど、年の同じくらいの人と会話はしたことがなかった。たくさんの共感があったし、たくさん友だちができたみたいで、すごく楽しかった。
- ◇ 次々に聞きたいことがあったけど何て言ってもいいか出てこなかった、もっと英語の勉強をしたい。
- ◇ 自分がしゃべらないとそこで会話がとぎれてしまう、とっさの一言をもっと学びたい。
- ◇ オーストラリアの人たちが日本語を一生懸命に話してくれている姿がすごくうれしかった。
- ◇ いろいろな人種の人がいるのが驚いた、オーストラリアは白人の国だと思っていた。
- ◇ ジェスチャーや笑顔が会話の中ではすごく大事だとわかった。
- ◇ 自分の英語を親切に聞いてくれた、そしてゆっくり話してくれた、だから本当に友達になりたくなった。
- ◇ 日本語で話すときも、英語で話すときも、大切なことは思いやりの気持ちだと気が付いた。
- ◇ 上手に話すことよりも、相手と共感できることを見つけることや、相手の興味のある話をする、相手が笑ってしまうような話をするの方が大事だと思った。
- ◇ まず日本の文化をしっかり勉強しないと、相手の質問に答えられないと気付いた。
- ◇ テキストに書いてあることを覚えるのではなくて、自分が言いたいことを言えるようにするために勉強をしないと意味がないことに気付いた。
- ◇ 気付いたこと、というよりとにかくまた CCC プロジェクトをやりたい、もっと自分の会話力を試したい。
- ◇ 始める前は嫌だったけど、相手の日本語を明るく話している姿を見ていると、いつのまにか一生懸命に話している自分がいたと思う。
- ◇ ID(ワン・ダイレクション)の話で盛り上がった。すごく好きなことが似ていて、学校の友達と話しているみたいだった。もっと話す時間が欲しかった(1時間では足りない!)
- ◇ 次に話す時には、しっかり準備をして、静岡のおもしろいものを紹介したい。
- ◇ 国際交流とかかた苦しく考えていたけど、いつもの友達の会話と同じで楽しいだけだった。
- ◇ オーストラリアに対して持っていたイメージと全然違った、きっと相手も同じだったと思う。
- ◇ 次は自分から積極的に笑顔で話しかけたい、今回はオーストラリアの友達に本当に助けられたから。
- ◇すごい日本のことを知っていてうれしかったけど、たぶん自分より日本についてくわしくて、自分の国ことなのに、よく知らなくて、ちょっとはずかしい気持ちになった。
- ◇ 普段習っている英語と全然違ったし、発音も人によって全然違った。
- ◇ あっという間だった、もっとたくさん話したかったし、オーストラリアに友達ができた気がしてわくわくした。